

街道沿いの旧家や神社。そこには、布川の人々の
ていねいな暮らし方が息づいていました。

ぬのかわ
布川
地区

布川は月舘町では大きな地区です。相馬へと通じる県道広畑月舘線。そして、いわきへとたどれる国道399号線。この2つの道が会う三叉路が、地区のほぼ中央にあります。人も物も行き交った道の近くには、往時を物語る土蔵や石垣が残り、たくさんの方々が祀られていました。

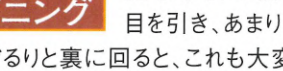


見つけた! 土蔵を守り花を咲かせる暮らし

2-22 どぞう **土蔵とガーデニング**

見事な松の枝と蔵が目を引き、あまりの美しさに引き込まれました。ぐるりと裏に回ると、これも大変古い木のはしが掛けられていました。振り返れば、玄関わきには手入れされたたくさんの花。昔と今のコントラストをすばらしいと感じました。

(布川字小池田地内)





年期の入った石積みが布川の風景をつくる

2-24 いしがき 石垣とはせ

130年前に積み上げた石垣、その前に稲束を掛ける「はせ」が組まれていました。「はせ」は太い竹が何本も横に渡されており、何年も使用されているものでした。秋には稲穂のカーテンになります。石垣がこんなにきれいな姿で残っているなんて、とても信じられませんでした。
(布川字小池田地内)



▶はせ掛け



石垣と稲はせ

2-23 いしがき こみち 石垣と小道

はせの組まれた石垣を通って行くと、また石垣が続き小道が奥に通じています。思わず入って行くと、その先には石でつくられた井戸があり、つるべを釣った輪が残っていました。60年ほど経つそうです。深い井戸で、のぞくと星が見えとく…。まるで映画に出てくるような趣のある井戸でした。
(布川字小池田地内)



石垣前の小道

屋敷の中に残っていた大切な洗い場と蔵

2-1 むかし あら ば 昔の洗い場

明治時代から使用している洗い場。昔は米をといだり、野菜を洗ったり、生活用水として使い、また養蚕道具も洗ったりと、とても大事な用水でした。現在は農機具等を洗ったりしているそうです。回りは丸めの石で積まれ、洗い場には愛宕神社からの切り石2枚が敷かれています。何故かその隣に水神様ではなく、天神様が祀られています。お話を伺うとき、鍋や釜の底を磨いている亡祖母、亡母たちの姿を懐かしく想い出されていたようでした。
(布川字西原地内)



2-2 きづく こくぐら 木造りの穀倉

大正時代末期に建てられた木造の穀倉。屋根下は風通しを良くするために開いていて、その下に天井がはってあります。土台も開いています。前にある石庭と不思議な程マッチ。現在も使用しているそうです。



蔵の回りには、昔使っていた田植えする時の筋をつける道具、苗代道具などがありました。参加者も、「あーこれ使っているの見た事がある」「なつかしいな」と、タイムスリップしたひとときでした。
(布川字西原地内)

思わぬところに時代の証言物を発見

2-15 きゅうぼうくうごうあと 旧防空壕跡

民家の敷地内に戦時中、防空壕として掘られた壕があります。間口が半間で、中は畳6帖分もあり、L字型に掘ってあります。防空壕として使われたことはなく、養蚕時に桑の保管に大いに役立ち、現在は芋類の貯蔵などに使っているそうです。中は暗くて、懐中電灯を点けて入ってみました。が広さにびっくり。コウモリが天井にぶら下がっていたのには、またびっくり。60年余も崩れることなく使われていて、手入れの良さにも驚きです。
(布川字十良田地内)



2-12 はんしょう 半鐘

月館町消防団第1分団第2部第2班のポンプ場の軒につるしてある半鐘です。半鐘とは火事を知らせるための小型の釣り鐘です。かつてはやぐらがあり、そこに吊り下げられていたのでしょうか。いつもの町並みをちょっと視点を変えて見るだけで、こんなところに半鐘が見つかったのがうれしく、新鮮でした。
(布川字赤井堂地内)



ここにもあった見事な石垣と生きている井戸

2-9 旧家の高い石垣

旧家の石垣は見事なもので、下の家との境の石垣は高さ約4m、長さが25mもあります。屋敷のまわりの石垣は合わせると100m近くもあるそうで、100年以上経った今まで崩れたことがないそうです。重機のない時代に、人力でこれだけの石垣工事をしたことは屋敷を守ることに徹した事、それだけの財力もあったからだと思います。昔は高い場所に家を構えるのが、権力の象徴でもあったようで、この家も竹ノ内屋敷の一番高い場所にあります。(布川字竹ノ内地内)



2-27 旧家のつるべ井戸



布川堰場の道標から、二枚橋に抜ける旧街道沿いの旧家の井戸は、安政4年に掘られ、今も大切に守られています。16mも深さのある井戸ですが、ポンプを使って汲み上げ使用しています。どうして掘ったのか、どうやって石を運んだのかと、ただただ感心するだけです。そして、今も大切に使っている井戸水の味は、安政の味かな。(布川字堰場地内)



2-26 鎌掛け道具

蔵の入り口に鎌掛けがありました。一枚の板に鎌を一度に20丁掛けることができるようです。だれが考えたのか先人の知恵のすばらしさに脱帽です。蔵の中には足踏脱穀機や手動の唐箕など昔の農機具が入っていました。(布川字堰場地内)

石積みの部屋には暮らしの知恵と工夫があった

2-3 16代続く御大尽宅の石組の室

庭に小さな穴があり、生ゴミや堆肥の材料を入れてやると、下は石組みされた室になっていて、そこに積まれます。昔は養蚕が盛んで、たくさん堆肥の原料が出ました。この穴から投げ入れておき、1年間蓄えては田畑の肥やしとして使用するようにつくったものです。1mもある大石をどこから運搬してきたのか。それだけでもたいしたものです。(布川字堰場地内)



三角形の不思議なかわいい池

2-28 庭の亀の子池

堰場地内の庭に、三角形の形をした大きな一枚岩をくり貫いてつくられた池があります。中央には亀の彫りものがあり大事にされています。どうやってこんな大きな石を運んできたのか、だれが亀を彫ったのかな〜と思いつつ、眺めてしまいました。(布川字堰場地内)



布川のつくる水辺の風景はいつまでも守りたい

2-8 不動滝とアジサイ

この地域を流れる布川。川にある岩石と相まってすばらしい景観を作り上げています。これは布川の奥入瀬。緑の中にアジサイが紫色の花をつけ、布川にもこんなステキな所があるんだな〜と思い、しばし見つめていました。(布川三淀ヶ入地内)



2-7 小手姫の布晒石

小手姫様を祀っている御前堂から50メートルほど布川をさかのぼったところに、姫が布を晒した(布を白くするため水で洗うこと)「布晒石」があります。今でも巨岩の上を清流が走っています。水がきれいなので、もう少し手入れをして景観を残してほしいものです。(布川字三淀ヶ入地内)



小手姫伝説

いまから1400年ほど前、崇峻天皇は、大和朝廷の権力争いにまきこまれ暗殺されてしまいました。その妃が小手姫です。小手姫は、東国に新しい国をつくろうと旅立ったわが子、蜂子皇子を探しこの地にたどりつきました。山腹で休んでいるとき山桑が生い茂るのに気づいた姫は、里の人々に養蚕や機織りの技術を教えるようになったと言います。皇子との再会はかなえられず、姫はこの地で亡くなったといわれています。月舘町には、姫にまつわるいくつもの伝説が残されています。

村社だった熊野神社はいまも人々の心のよりどころ

2-4 熊野神社の急な石段



慶長2年(1597)に、勧請されたと伝えられる熊野神社。大正12年、拝殿が再建されたときに石段も積み上げたようです。少し石幅が狭く不安な感じがします。あまり大きな機械のない時代、人の手で作られたのだろうか。石段に足をかけ、登り始め上を見ると、「うわー怖い」と思わず声が出そうな急な石段です。(布川字村石地内)

2-5 輪くぐり

毎年7月30日に拝殿の前に笹竹で輪を作り、この中を右に3回まわって正月から夏まで無事過ごしたお礼をし、さらに左に3回まわり夏から正月までの家内安全、身体堅固をお願いします。小さかった頃は、その輪をくぐるのがとても楽しいものでした。(布川字村石地内)



2-6 煙草神様

大正時代から昭和10年代にかけて、この地方の農家では葉煙草を盛んに栽培していました。この「煙草大神」の碑は、昭和17年に月舘町煙草耕作組合が、感謝の意味で建立したそうです。あまりよそでは見られない碑。熊野神社にはお参りに行くのに、全然気づかずについて、今回説明を聞きびっくりしました。(布川字村石地内)



あちこちに残る小さな祈りの場所

2-10 竹ノ内観世音菩薩

竹ノ内地域に鎮座する、小手三十三観世音の二十五番札所で、福島市山口の文知摺観音の分霊と言われています。現在の本堂は篤志の方の寄進による総ケヤキ造りで、屋根は銅板葺きです。毎年桜の花見ときにお祭りをしています。幼い時分に、木登りして遊んだ、サルスベリの樹は今も元気です。(布川字竹ノ内地内)



2-14 永作のいぼ地蔵尊

県道広畑月舘線、永作地内の道のすぐ側に、永作のいぼ地蔵尊があります。通称「一盃盛の地蔵様」ともいわれています。以前は堂内に安置されていましたが、広畑線が改修されたのを機に昭和53年に建てかえられ、そのときお参りしやすいようにとお堂の外に安置されました。昔は食生活が貧しいゆえか、イボがある人が多かったようです。医者にかかる前に、いぼ地蔵様をお願いするために、遠くからも、お参りに来る人が多かったそうです。「地蔵様に触ると不思議とイボがとれてしまう」とよく聞きました。(布川字永作地内)



もう一つの熊野神社にあったのは、めずらしい猫神様

2-19 犬飼の熊野神社と猫神様

犬飼地域の鎮守、熊野神社は室町時代の末、永禄年間の頃、紀州の熊野詣の際に受けてきた御神符を、御神体として祀ったものと伝えられています。社の裏手には、雷神様、小牛田様、山神様などに混じって、猫神様も祀られています。

地域の人々の信仰のよりどころになっているようですがしのぼれます。「み猿、きか猿、いわ猿」は日光東照宮にあります。寄り添った3匹の猫の石像は初めて目にしました。(布川字犬飼地内)



2-20 熊野神社の旗棹保管小屋

熊野神社の鳥居のわきの方に、長さが7間(12.6メートル)もある小屋があります。祭礼に掲げる五反旗の棹を保管しておくためのものです。旗棹を風雨から守るために氏子の方たちがつくられたのでしょう。平成16年に2基のポールが有志の方々の寄贈により立派に完成したとのこと。長年お世話になった旗棹は使われなくなりますが、大切に保存してほしいと思います。(布川字犬飼地内)



大切に守られている神社と観音様

2-21 あおぞじんじや さいせんぼこ 青麻神社の賽銭箱

県道広畑月館線より東犬飼地内に入り、町道の沢沿いをしばらく登っていったところに、青麻神社が祀られています。中気除けの神様として信仰されてきました。祠のそばに石をくりぬいた賽銭箱があり「おさい銭此中に入れてください」と書かれてあります。石をくりぬき、中心に雨水抜き穴を抜いた心配りに感心しました。小道のかたわらにひっそりとたたずむ祠は、周囲が掃き清められており、お守りしている方が大切に扱ってられるのがわかります。以前はお祭りもしていたとのこと。(布川字東犬飼地内)



▶ 賽銭箱

せんじゅかんのんだう 千手観音堂

千手観音堂は寛永7年(1630)の建立と伝えられています。お堂は中古屋の入口にあり、昔は子どもの遊び場所でもありました。春のお祭り(旧3月17日)には出店も出て、にぎやかな1日でした。現在は、数戸の信者によってお祭りが行われています。(布川字下中古屋地内)



2-16 まりしてん じんじや 摩利支天神社

ここには昔、大木坂重蔵という棒術の達人が開いた武術の道場があったと言われていいます。門弟とともに、精神の修行・武術の



上達を願い武術の守護神である三神を祀り建立しました。碑の後方には、門弟たちが立てた「重嶽良雲居士」の法名を刻んだ墓碑も残っています。私が小さい頃はここで盆踊りをしたり、祭りの日には出店が出たりと、太鼓の音が鳴り響く場所でした。昔は子どもたちの遊び場でした。(布川字大木坂地内)

信仰の厳しさを今に伝える行屋

2-18 もたき じんじや 最滝神社

最滝神社是最登山の中腹にあります。まわりは杉林に囲まれ山から出る清水が流れ、見るからに壮麗な感じです。近くには最登の滝もあります。岫の笠松が有名でしたが、平成6年、松くい虫の被害で伐採。今は切り株が残っています。山にいるオサカブ(青大将)は、神様の使いといわれていました。御本尊是最登山にありますが、遠いので、岫に行屋といこれに代わる休み場所を置いて祭事一切を行い、今でもお祭りをしています。(布川字岫地内・最登山)



2-25 さんざん じんじや ぎょうや あと 三山神社行屋跡

出羽三山信仰の講は盛んに行われ、毎年、集落ごとに代表して参詣に行く人を決めました。行屋は参詣前の禊(みそぎ)の場で、一週間こもって身を清めてから出かけたそうです。昭和50年地鎮祭をし、奉納しています。今は観光気分でお出かけ。考えられないことです。(布川字小柳地内)



特集 布川

ふるさととの道

人が行き交った道。物が運ばれた道。それは文化がもたらされた道。

草むらの中の石碑が教えてくれるのは布川が一番にぎやかだったころ。



2-17 ちやばたけ どうひよう 茶畑の道標

布川・茶畑から金子坂遺跡への分岐点に立つ高さ1.3メートル、幅40センチの自然石の道標です。「右やま道、左そうま道」と彫ってありますが、花コウ岩で風化が激しく読みにくくなっています。建立年もわかりません。右の金子坂方面は、現在は林道が開かれて昔の道筋はわからなくなっていますが、沢沿いの小道でした。金子坂遺跡の近くを通過して山に入る悪路だったことが伺えます。左手へ進むと行合道に出て、現在の国道115号線に通じます。月館から相馬への最短距離の道路として往来も激しかったものと思われます。このような道しるべは、どんなにか旅人に安心感を与えたことでしょう。（布川字茶畑地内）（『ふるさとの小径を行く』より引用）

●ぬすつとみち

布川の峠部落から笹田に越す道がありますが、この山道は相馬に通じていました。昔、相馬の若者たちは、伊達の村々の食糧不足を知り、夜遅く三斗入の米俵をかついでやって来て銭にかえて、小遣いかせぎをしていたのだそうです。自分の家の米俵が不足すると、よその米俵までかすめてそれをついでこの山道をせせとやって来て、銭をかせいで帰ったといひます。村の人達は、この道をいつとはなしに「盗人道（ぬすつとみち）」と呼ぶようになりまし。そのおかげで、生命をつなぐ人達も多かったとか。村人たちはその道ばたに明神様を祀って、この道の旅行の安全と部落の繁栄を祈りました。



●あかいどうじぞうもん 赤井堂地蔵尊

県道広畑月館線と国道布川線の三叉路に立っているのが赤井堂地蔵尊。お堂はすべて真っ赤に塗られていて目を引くだけに、布川の誰もが親しむ道しるべにもなっています。「しろかき地蔵」「子育て地蔵」として住民に親しまれ、小手郷巡礼五番札所になっています。

2-13 こばちうち どうひよう 小鉢内の道標

布川の赤井堂から広畑月館線を歩いていくと、児童遊園地の反対側に、「右ハにまい橋」「西ハつきだて」「左は石田道」と、花コウ岩に刻まれた高さ87センチ、幅46センチの道標があります。かつて、江戸時代末期には相馬と石田への分岐点としてにぎわったところで、この道は塩を運ぶための主要道路であったそうです。今では、あぜ道の雑草に包まれて気づく人はあまりいないのかもしれませんが、往時をしのばせてくれる大切なもの。思いをはせながら、昔の道路をたどってみたい気がします。（布川字小鉢内地内）



2-11 きゅうかいどう こぶ 旧街道の瘤つきケヤキ

国道布川線（国道

399号線）の竹ノ内地内の旧道には、昔植えられたケヤキの大木が何本か植えられています。いつ頃植えられたのか、樹齢もはっきりしませんが、幹にはケヤキの古木特有の「瘤（こぶ）」が見られます。城跡などには瘤のある古いケヤキが多いものですが、この旧街道わきのケヤキも大切に守っていききたい古木です。（布川字竹ノ内地内）

